



腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類の総合的な防除として、秋冬期の薬剤散布は有効です。下記の内容を参考にし  
て薬剤散布を実施してください。

## 1. 点検処理

薬剤散布前に園内点検をし、腐らんり病部の切り取りや削り取りを行い、トップジンMペースト等の塗布を実施する。

## 2. りんご特別散布

散布時期：11 月下旬～12 月初旬

散布薬剤：水 900  
展着剤 10ml \*注意事項②  
石灰硫黄合剤 100

適用病害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類

散 布 量：10 アール当り S S 3000

### 【注意事項】

- ① 樹全体を洗うように散布量は多めに設定する。
- ② 固着性展着剤のアビオン E の 1,000 倍等を使用すると薬液の付着効果が高い。
- ③ 隣接するハウスビニールに飛散しないようにする。

## 3. 越冬対策…下記をよくお読みください。

### ■ 野ねずみ対策（総合的に駆除する）

- ① 根元のマルチ・草はきれいに取り除く。また、園の周囲もきれいに除草する。
- ② 密度を減らす(捕殺)：一斉防除は必ず実施してください。  
**パチンコでの捕獲**：りんごのエサ等でネズミの活動穴へ夕方仕掛けて 4～5 日続けると効果があがる。  
**毒エサによる毒殺**：所定量を穴に投与したり、ネズミが集まりやすいように剪定した枝を束ね、ワラ等で覆った中に毒エサを入れておく(10 アール 4～5 ヶ所)。穴へ毒エサを入れる場合は、奥の方へ棒で押し込み穴をこわさないようにしておく。
- ③ 古タイヤを半分位土に埋めて中に毒餌を入れておく(餌は何回も追加する。) 15～20m に 1 本位設置が目安。

### ■ 凍害対策

- ① 初結実の翌年は特に凍害を受けやすい。予防法としては主幹部(80cm 位まで)への白塗剤(フジホワイト)の塗布やわら巻き等の防寒資材の効果が高い。(白塗剤とワラ巻きを併用すると更に効果的)
- ② りんご若木：白塗剤の塗布は、樹体温の上昇を抑制する効果が高いので必ず実施する。
- ③ もも：8 年生樹まで枯死が多発。必ずわら巻きを実施し、樹体保護に努めてください。  
\*わら巻きは、地際部から地上 80 cm 程度までの樹幹部に厚さ 5 cm 以上で実施してください。

### ■ 雪害対策

- ① 骨格枝はあらかじめ添え支柱をしておく。(特に雪害被害樹は注意)
- ② あらかじめ消雪剤を園地に運んでおき大雪の際には素早く散布する。
- ③ 早期粗剪定の実施。枝の結束の実施。
- ④ 棚の修繕、補強(支柱等)、農薬飛散防止ネットの片付け等行い積雪に備える。

### ■ 除草剤の使用

- ① 越冬雑草対策として、この時期にラウンドアップマックスロード、タッチダウン iQ 等の 100～200 倍液を 10 アール当り 50 ㍓散布すると翌春まで雑草の抑制効果があります。(樹体やヒコバエにかからないよう注意して下さい)
- ② わい化の幼木には使用しない。

裏面もご覧ください。(苗木管理方法)

## (参考資料) 苗木の管理方法

### 植え付け方法とポイント

① 植え穴は苗木の根の2倍の大きさで、直径80～100cm、深さ50cm位掘り、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)を混ぜて埋め戻し、定植にする。

\* ユーキリン(20kg : 3,865 円)、もみがらくん炭(300 : 496 円)、エアープイント(18kg : 529 円)は、営農センターにて取り扱っています。

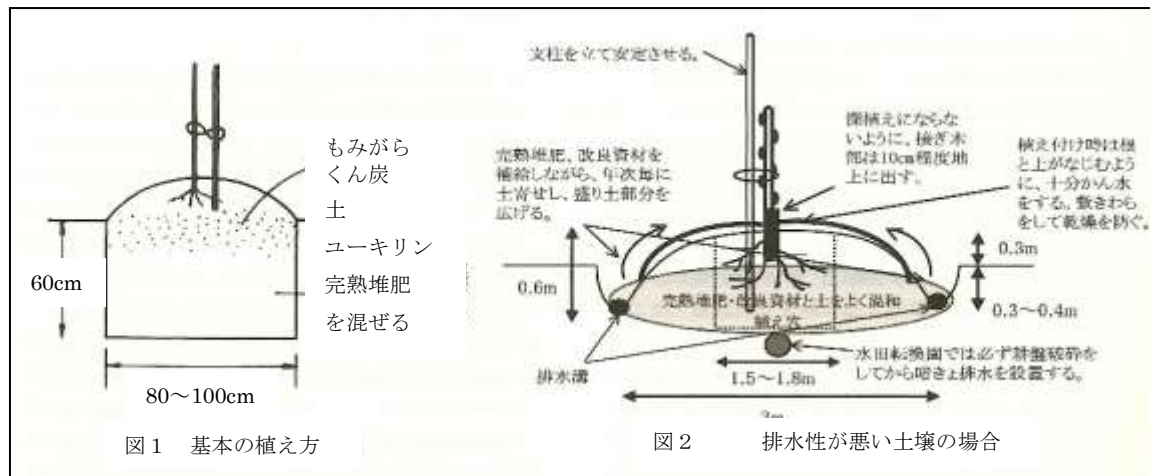
\* 化成肥料を施用する場合は、定植後とする。多量の施肥は根をいためる場合があるので注意する。配達された苗木は乾燥気味のため、12 時間(1 晩)程度、根部を水に浸して十分に吸水させてから定植する。 すぐに定植できない場合は、吸水させてから仮植しておく。

② 植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。土をかけたら、苗木を軽く持ち上げるようにしながら足で軽く踏みつけて、たっぷりかん水を行なう。

③ 植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

④ 苗木は支柱を添えて固定し、揺れを防ぐ。

⑤ 苗木の剪定(切り戻し)は、春季(3月下旬～4月上旬)に行ない、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。



### 秋植えの場合

① 越冬対策は必ず実施してください。

② 秋植えを行なう場合は、土壌と根の活着が良く春季の生育が良好となるが、凍害・雪害等の心配があるため、定植後は必ず防寒対策・冬囲い(わら巻き(厚さ5cm以上)等)を実施する。

### 春植えの場合

① 春植えの場合は、伏せ込みを行なう。

② 束ねてある苗木は必ずバラして、根部を土中の凍結部以下になるようにして伏せ、苗木の下部70cm位を土中に埋める。

③ 乾燥防止のため、細根部分は隙間がないよう丁寧に土をかぶせる。

④ 春植えの場合は特に土壌が乾燥しやすいので、雪が消えたら土壌が乾燥しないよう、

⑤ 植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。(3月下旬～4月上旬に定植する。)